



## この大地に

校長 澤田 有子

昭和52年3月12日に、“新生”荏田小学校の校歌ができました。校歌の作詞者 甘利 義久氏は、この地の印象や作詞の原点をつぎのように語っています。

「高く低く、そして遠く近く連なる緑の丘。そのふもとは、秋の陽を浴びて赤く輝く柿の実、清らかな風。何か土のにおいがしてくるような素朴な田園風景と歴史と文化を詠む。都筑の里の土には、この上に生きた人々の心がしみ込んでいる。この土が、ここに生きる人々の心を育てる。」

以来37年、都筑区や青葉区的发展とともにこの地にも開発の波が押し寄せてきていますが、今も昔も変わらない風景や人々の営みは未だ残されています。そして、子どもたちは、今もこの大地からたくさんのお話を学んでいます。

さて、子どもたちを木にたとえてみると、小学校時代は木の生長のどの時期にあたるのでしょうか。私は、根を伸ばして大地をつかんでいく時期が、小学校時代であるのではないかと考えています。若木は水や肥料をたっぷりと与えてもらいながら、大きく育っていきませんが、大地にしっかりと根を張ることができなければ、途中で倒れてしまうことになります。木が大きくなればなるほど、倒れた時の衝撃も大きくなるに違いありません。

では、根をしっかりと張るために必要なこととは何でしょうか。まず、“学校での学び”と“家庭での育み”が考えられます。さらに、子どもたちがこの地を「ふるさと」として心に刻むことができたならば、三つのファクターの大きな相乗効果を期待できるのではないかと思います。緑の風を胸いっぱい吸い込みながら、土と遊ぶ。この地に根ざした行事や文化に触れながら、まちや人と遊ぶ。目には見えないけれど、明日につながる何かを得ることができるのではないかと考えています。

『地域連携』とは、子どもたちがこの大地に根を伸ばし、この大地をしっかりとつかんで立つために必要な学校を含むまちづくりなのかもしれません。

7月1日に、本校は第41回目のお誕生日を迎えます。



6月5日に、保護者の皆様と保護者OB・OGボランティアの皆様にご協力をいただきながら、第39回目の田植えを無事に終えることができました。心より感謝申し上げます。